

## 連載



外国株式ファンドへの資金流入が減速しています。今年1月に過去最大となる1兆9,600億円の流入を記録しましたが、その後は6カ月連続で減速しており、7月には4,100億円程度にまで流入額が減少しました。また、資金流入上位ファンドを見ても、足元では米S&P500指数に連動する低コストのインデックスファンドの資金流入額が減速するなど、トランプ関税を巡る不透明感などから資金トレンドに変化の兆しも見られます。7月末時点の残高で87.2兆円に達している外国株式ファンドですが、その過半の50.7兆円程度はインデックス型やテーマ型を含むグローバル株ファンドとなっています。

一方、単一国で最も残高が大きいのが米国株ファンドで、31.0兆円に達しています(図表1参照)。米国株に続くのがインド株ファンドで残高は3.6兆円となっていますが、3位以下の残高はほとんどなく、豪州株ファンドが2,400億円程度、ベトナム株ファンドが1,500億円程度、中国株ファンド(中華圏含む)が1,400億円程度にとどまっています。また、地域にフォーカスしているという観点では、欧州株ファンドが2,700億円程度(ドイツ株ファンドなど欧州の単一国も含めると2,900億円程度)の残高がありますが、やはり米国株とインド株と比較すると、残高は限定的と言えるでしょう。

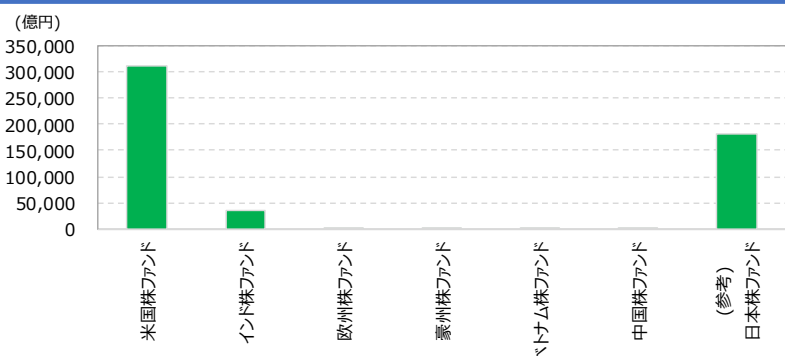
続いて、資金流入を見てみましょう。7月の外国株式型全体の資金流入額は4,100億円程度となっていますが、グローバル株ファンドに3,200億円程度、米国株ファンドに900億円程度の資金流入があり、両者を比較するとグローバル株ファンドが優勢となっています。なお、今

年1月の資金流入額を見ると、グローバル株ファンドが7,400億円程度、米国株ファンドが1.2兆円程度となっていたので、米国株ファンドの資金流入の減速が際立っていると言えます。

図表2は、国・地域を絞ったファンドだけで純設定額を集計したものです。米国株ファンドの資金流入が大きく減速する中で、今年に入って月間100億円を超える資金流入額のあった国・地域を見ると、インド株ファンドと欧州株ファンドの存在感が高まっています。インド株ファンドは5月151億円、6月120億円の資金流入を記録、欧州株ファンドは6カ月連続の資金流入で4月103億円、5月195億円、6月212億円、7月188億円となっています。米国株ファンドの資金フローが大き過ぎるためグラフでは分かりにくいかもしれませんが、株式相場の不透明感が高まる中で、こうしたトレンド変化の兆しが出てきたことに留意する必要があります。

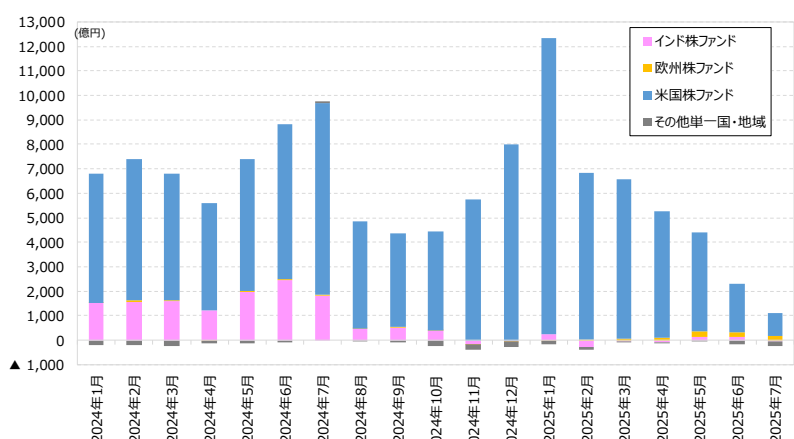
(執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 追加型・外国株式ファンドにおける国・地域別の残高(2025年7月末時点)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成

図表2 追加型・外国株式ファンドにおける国・地域別の純設定額(グローバル株ファンド除く、2024年1月~2025年7月)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成